

<p>★学校教育目標 ○よく遊ぶ元気な子 ○よく考え意欲をもって取り組む子 ○豊かに感じて表現する子</p>		<p>★重点計画の概要</p>	
<p>★目指す学校像（ビジョン）</p> <p>【めざす児童・生徒像】 ◆【よく遊ぶ元気な子】 ○やりたいことに夢中になれる子「おもしろそう！ やってみよう！」（興味関心の広がり）○必要な約束やルールを守ろうとする子「みんなと心地よく過ごすために！」（規範意識の芽生え）</p> <p>◆【よく考え意欲をもって取り組む子】：○おもしろさや不思議さを感じ考える子「なんで？どうして？ふしぎ？おもしろいね！」（知的好奇心・思考力の芽生え） ○やってみたいことに粘り強く取り組む子「失敗してもあきらめないよ」「頑張り続ける！」（粘り強く挑戦する気持ち）</p> <p>◆【豊かに感じて表現する子】○自分も好き友達も好き！ありのままを素直に表す子「みんなだーいすき！」（感性） ○自分の気持ちや経験したことを話したり、話を聞いたりする大切さや楽しさがわかる子（言葉による伝え合い）○人や動植物等、生きるものとの触れ合いを通して、共に生きる喜びや生命（いのち）あるものをいたわり大切にす子（生命尊重）</p> <p>◆笑顔と優しさや幸せ感があふれる幼稚園 ◆すべての子どもを、ど真ん中におく保育を進める幼稚園 ◆園。保護者。地域の方々子どもを育てる幼稚園</p> <p>【めざす学校像】</p> <p>【めざす教師像】</p> <p>◆かけがえのない“いのち”を預かる責任をもち、深い愛情を子ども達に注ぐ教師 ◆チーム幼幼「こころのねっこ伸ばしたい」の一員として組織の中で自分の役割を担い 教諭同士で学び、支え合い自分を高めていける教師</p>		<p>平成30年度幼稚園教育要領の実施に伴い、幼稚園教育において「育みたい資質・能力」及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が明記された。また平成31年度より、日野市未来に向けた学びと育ちの基本構想（第3次日野市学校教育基本構想）の実施となり最終年度を迎えた。すべてのいのちがよるこびあふれる未来を創っていく力の基礎を2年間で育めるよう、幼児教育を推進する。子供のいのちを守り、人権を尊重し、一人一人の個性と特性を理解しながら、細やかに温かく、適切な援助を全職員で行っている。また子供の元気なころからだ、幼児期に育ってほしい思考力・表現力・判断力、豊かな感性を育むために、環境を通じた遊びの充実を目指す。また自然との関わり、絵本活動の充実のため、幼児の心の豊かさにつながるよう地域の人材を活用する。保護者、地域と共にある幼稚園であるために、積極的に子育て支援また幼保小連携を推進していく。</p>	

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準				保護者の意見	結果の分析と改善策
				評価点	取組指標	評価点	成果指標		
いのち	自他の“いのち”を大切にしようとする意識を高める。	いのちあるものの育成に関わる体験を通して、「いのち」の意味を感じ、自分がそれに対してどう関わらなくてはならないかを学ぶ。	「いのち」の意味を知ったり、「いのち」を維持させるための自分の関わり方を学んだりするために、植物の栽培・小動物の世話を行う。	4	植物の栽培・小動物の世話の体験を年間計画に位置付け、計画の90%を行うことができた。	3	4	動植物の世話に進んで関わろうとする子供が80%いた。	「植物栽培、小動物の世話等の触れ合いを通して、関わり方やいのちの大切さを知ったりすることにつながっていたか」の設問に、保護者全員からA評価を受けた。（満足またはそう思う）「蝶の羽化を子ども達、職員、保護者と実際に見られたのは本当に感動でした！」という感想も寄せられた。また野菜の収穫栽培に対しては、保護者から「自分達が育てた野菜は格別のように、苦手な野菜も食べる姿が見られ、驚きと嬉しさがあった」と家庭での様子やどのように食したのか等、話を聞く機会があった。
				3	植物の栽培・小動物の世話の体験を年間計画に位置付け、計画の80%を行うことができた。		3	動植物の世話に進んで関わろうとする子供が70%いた。	
				2	植物の栽培・小動物の世話の体験を年間計画に位置付け、計画の70%を行うことができた。		2	動植物の世話に進んで関わろうとする子供が60%いた。	
				1	植物の栽培・小動物の世話の体験を年間計画に位置付けたが、計画の70%未満しか行えなかった。		1	動植物の世話に進んで関わろうとする子供が60%未満だった。	
まなび	生きる力の基礎となる知識や技能を活用するための思考力・判断力・表現力を高める。	興味・関心をもって進んで活動に取り組むことを通して、不思議さに気づいたり、何故なのかを考えたり、発見する驚きや喜びを感じたりする意欲を身に付ける。	自分なりに気付いたり、考えたり、驚きや喜びを感じたりするわくわくときどきの体験ができるように、「野菜くすを使った土づくり」「食物の栽培・収穫・食事」の活動を行う。	4	「野菜くすを使った土づくり」活動を計画通りに行う中で、事前・事後指導を的確に行い子供の主体的な発信や積極的な取り組みを促した。	3	4	興味関心をもって活動に取り組み、意欲的に思ったこと感じたを発信してきた子供が90%だった	「元気野菜作り等、自然とかかわる直接体験は、自分なりに気付いたり考えたり、驚きや喜びを感じたりする体験になっていたか」の問いに、保護者全員からA評価（満足またはそう思う）を受けた。「菌ちゃん（土の中の微生物）」に親しみもち、土の中に入れた野菜がなくなっていることに不思議さや面白さを感じながら活動することにつながった。保護者にも紙芝居の内容について効果的であった。収穫した野菜は自宅で持ち帰るが、食した野菜についての保護者間で情報を共有し合える機会が少なかったため、次年度は作れるようにしていく。
				3	「野菜くすを使った土づくり」活動を年間計画通りに行う中で、事前・事後指導を行い、子供の主体的な発信や積極的な取り組みを促す指導を行った。		3	興味関心をもって活動に取り組み、意欲的に思ったこと感じたを発信してきた子供が80%だった	
				2	「野菜くすを使った土づくり」活動を年間計画通りに行う中で、事前・事後の指導を行った。		2	興味関心をもって活動に取り組み、意欲的に思ったこと感じたを発信してきた子供が70%だった	
				1	「野菜くすを使った土づくり」活動を計画通りに行えなかった。		1	興味関心をもって活動に取り組み、意欲的に思ったこと感じたを発信してきた子供が 70%未満だった。	
地域	幼児が保護者や地域の方に支えられて豊かな経験ができてきているという意識を育てる。	保護者や地域の協力を得て、様々な活動を体験できることへの喜びや楽しさを感じ、感謝の気持ちをもつ。	園生活や行事での体験に保護者や地域の方の力を借り、幼児にとって、より豊かな経験となる活動を取り入れる。	4	保護者や地域の方の協力を得た活動を計画通りに行った。	3	4	80%の子供が活動を体験した喜びや楽しさを感じ、協力してくれた方に感謝の気持ちを伝えた。	「保育の内容や様々な行事や日々の遊びは、子ども達の育ちや学びにつながっていたが、保護者や地域の人々の協力を得て、豊かな体験につながっていたか」の問いに、一人（B評価）を除いてA評価を受けた。「夕涼み会、運動会等、先生方、園児、保護者は一丸となって作り上げることから、お互いの信頼関係、協調性がさらに強くなったとても良いことだと思っている」「幼稚園で体験したことを家で楽しそうに話す姿を見るところからも楽しくなり本当に第四幼稚園に運ばせることができて良かったと改めて思った」という感想も寄せられた。
				3	保護者や地域の方の協力を得た活動を計画の90%行った。		3	70%の子供が活動を体験した喜びや楽しさを感じ、協力してくれた方に感謝の気持ちを伝えた。	
				2	保護者や地域の方の協力を得た活動を計画の80%行った。		2	60%の子供が活動を体験した喜びや楽しさを感じ、協力してくれた方に感謝の気持ちを伝えた。	
				1	保護者や地域の方の協力を得た活動を計画通りに行ったのは、80%未満だった。		1	活動を体験した喜びや楽しさを感じ、協力してくれた方に感謝の気持ちを伝えた子供が60%未満だった。	
いのち	ひとりひとりの幼児の教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実を図る	ひとりひとりの幼児の実態を把握し、個に応じた教育を進める。	幼児の実態を適切に把握し、個別指導計画に基づいた支援を行えるよう。園内、全職員の指導体制を充実させる。	4	全体での個別支援会議を6回以上実施できた	3	4	全職員が支援を必要とする幼児について共通理解し、適切に関わることができた	「一人一人の幼児の実態（個性や特性）を把握し、園内体制を整え、個に応じた対応や個別的配慮をしてみましたか」の問いに、保護者全員からA評価を受けた。「いろいろなおことに興味をもち、疑問に思ったことを先生に聞いて、自分なりに考えてみたりと、普段の何気ない小さな出来事も先生達は汲み取ってくれて導いて下さるので、感謝の気持ちでいっぱい」「先生方もみんなも優しくあたたかい第四幼稚園で過ごすことができ、感謝の気持ちでいっぱい。また多くの支援や配慮をいただき、幼稚園生活を安心して送ることができた」という感想も寄せられた。
				3	全体での個別支援会議を5回実施できた		3	全職員が支援を必要とする幼児について共通理解できた	
				2	全体での個別支援会議を4回実施できた		2	支援を必要とする幼児について、教諭と担当クラスの支援員が共通理解し、適切に関わることができた	
				1	全体での個別支援会議を実施できたのは4回未満であった。		1	支援を必要とする幼児について、教諭と支援員が共通理解した	
地域	子育て支援の充実を図る	地域と共にある幼稚園として、子育て支援の充実を図る。	未就園児の「ひよこの日」「ぶちこの日」「ニコニコデー」を年間計画に沿って進めると同時に、幼稚園公開や、参加できる行事、講演会等を周知する。また園児との交流や配布資料等を通して、幼稚園に関する情報を提供していく。	4	未就園児や保護者にとって豊かな経験となるように、計画に基づき活動内容を工夫して進めること90%できた。	4	4	利用した乳幼児親子の90%以上が満足した	「未就園児の日を利用することはお子さん、保護者にとって満足につながっている内容でしたか」の問いに大多数の保護者から、満足、楽しかったと感想ももたらした。今年度から、自由開放日（にこにこデー）が増え、年間で来園できる日が大幅に増えた。にこにこデーでは、保護者主催の「もったいない市」として、玩具や服等を譲り合う日もでき、初めて来園する未就園児もいた。保護者同士が、コミュニケーションを図り、つながりあうきっかけにもなっていた。全体の活動内容については、保護者からは、毎回楽しみであり、楽しい時間になっていると話が聞かれた。
				3	計画に基づき、未就園児や保護者にとって豊かな経験となるように、計画に基づき活動内容を工夫して進めることが、80%以上できた。		3	利用した乳幼児親子の80%以上が満足した	
				2	計画に基づき、未就園児や保護者にとって豊かな経験となるように、計画に基づき活動内容を工夫して進めることが、70%以上できた。		2	利用した乳幼児親子の70%以上が満足した	
				1	計画に基づき、未就園児や保護者にとって豊かな経験となるように、計画に基づき活動内容を工夫して進めることが、70%未満しかできなかった。		1	利用した乳幼児親子のうち、満足したのは70%未満であった	
まなび	幼保小連携を推進する	第四小学校との交流や近隣保育園合同の交流の実施、また幼児教育研修会を通して互いに学ぶ合う。	年間計画に基づき、主に第四小学校との交流や情報共有及び意見交換を対面しての実施をする。また近隣私立保育園合同で幼保小交流を実施する。また、幼児教育研修会を通して異校種が互いの保育、教育を理解しあう場を提供する。	4	計画通り行う中で、より創意工夫しながら実施することができた。	4	4	互いの保育、教育の理解につながったと感じた職員が80%いた。	第四小学校との交流では、体育授業を通しての研究授業と協議会を実施し、講師の助言もいただきながら互いの教育の理解につなげてくれた教員もいた。小学校との交流は、全学年と交流は難しいが、協議会を通して、互いを知る大切さを理解してくれていた。また保育園、幼稚園と第四小学校との交流は計画通り実施できた。また計画にはなかった交流も実施することができ、さらに体験を通して楽しさや大切さを感じることになった。次年度の交流も楽しみにしてくれていた。
				3	計画通りに行う中で実施することができた。		3	互いの保育、教育の理解につながったと感じた職員が70%いた。	
				2	ほぼ計画通りに実施することができた。		2	互いの保育、教育の理解につながったと感じた職員が60%いた。	
				1	ほとんど計画通りに実施することができなかった。		1	互いの保育、教育の理解につながったと感じた職員が60%未満だった。	